

大学記念館にDVD・音声ガイド・タッチパネルのナレーションシステムを導入

豊橋研究支援課職員
愛知大学東亜同文書院大学記念センター／
オープン・リサーチ・センター 山口恵里子

東亜同文書院大学記念センターナレーションシステムは、東亜同文書院（後に大学）から愛知大学の歴史を、DVDにまとめ、大学記念館の主な展示品を音声ガイドで解説し、さらにタッチパネルを使用してより解りやすく紹介したものです。これらの3種類のシステムは、在学学生はもとより卒業生・一般市民にも広く大学をPRし、同時に大学記念館映像資料として活用するために作成・導入しました。

DVDで東亜同文書院から愛知大学の歩みを紹介

DVDは、受験生に対しては伝統ある愛知大学を紹介し、愛大生特に新生に対しては、本学のルーツを知り、愛大生としてのアイデンティティをもつことを目的として、東亜同文書院が創立された1901年からの本学の歴史を25分余りで紹介しています。

タイトルは東亜同文書院から愛知大学の歩み「21世紀にはばたく真の国際人の育成」としました。

作成のポイントとしては、DVDを見終わって何を残すことができるかです。内容は興味を持って考えさせられるものであり、東亜同文書院とは何かを知らせ、校風や学生気質の流れを継承していること。また、戦後の廃校時に学生を学長たちがどう考えて愛大を創設し、そしてその後の決して順調ではなかった愛大の歴史をどう表現するかなどです。非常に厳しい問いかけですが、検討の

結果、特に3つの柱を中心に作成することにしました。

■愛知大学の前身である東亜同文書院は、戦前海外に創設された日本の高等教育機関としては最も古い大学であり、ここでの学生生活は、自主性を尊重した自由闊達なもので、自ら学ぶ姿勢をもっており、「念書」とよばれる上級生が下級生に中国語の発音指導をしたり、また卒業調査の「大旅行」などのすばらしい教育をしていたこと。

■東亜同文書院の設立目的も含めて、愛知大学の建学の精神である「世界文化と平和への貢献」、「国際的教養と視野をもった人材の育成」、「地域社会への貢献」をめざしてきたことに力点を置き、さらに愛大のシンボルであるといえる自由受難の鐘の意図である「自由



DVD

を求めれば必然的に苦難は避けることができない。その壁をのりこえて、自己実現のための前進を願うこと」を汲みとること。

■これからの自分の生き方や人生をイメージして、学生生活でなにを身につける必要があるかを考え、そして、困難なことがあっても頑張れば明るい将来があると思える内容であること。

このDVDは、現学生には大学史講義・学習法・入門ゼミ等の授業でも活用し、より一層の愛校心を育てることができ、また、卒業生・一般市民に対しては、外部での講演会等においても使用し、本学に対する認知度を高める意図も取り入れました。

具体的には、東亜同文書院からの歴史の流れを大きく分類し、(誕生～内容～変化～戦争～終焉～再起～苦難～発展～充実～明るい将来)と結び、その時代の映像資料、物的資料、関連書籍など計1,000点余りを学内外から探し、必要に応じて3キャンパスをビデオ撮影し、学生の新鮮な印象も表現しながら盛り込みたい内容をまとめました。

録画時間は、対象・用途を考えた場合、できるだけ短い時間を目標にし、東亜同文書院と愛知大学の映像比率にも考慮しました。同時に必要な画像、キャプション、ナレーションを分担して映像担当者と何回もやりとりしながら作成しました。

最終的にはプロジェクトメンバーがスタジオ入りし、DVDの音声入力に立会い、画像やテロップのチェックをして完成に至りました。

音声ガイダンスで東亜同文書院展示室と愛知大学史展示室を紹介

音声ガイダンスは、来館者に展示資料の重要性和価値を知っていただくために、東亜同文書院・愛知大学史展示室にある主な展示品を紹介しています。

初めての来館者にも理解してもらえることを目標にして、各展示室のバランスや特に強調したい内容、ガイドのコマ数、ナレーションの時間を決

めていきました。

各部屋の特徴的なものを選択し、全体のバランスや流れを見ながら書院展示室の14点、大学史展示室の13点をガイダンスしています。

特に力を入れたことは、戦前外地にあった日本の学校で学籍簿・成績簿を完全に持ち帰ったのは東亜同文書院だけであった事、とその意味、そして愛大誕生の経緯についてです。

愛大校歌をもっと知って欲しいとのメンバーの意向から、学生歌、梢の歌、愛知大学予科逍遙歌も入力し、より愛校心を高めるように工夫もしました。

音声ガイダンス機



(音声ガイド番号を10.キーで入力して使用。)

音声ガイド機40台は、ゼミ、学習法などのクラス単位でも対応できるように配慮し、設置してあります。

音声ガイドのナレーションは、日本語はもとより留学生や外国からの見学者にも対応できるように英語、中国語を加えて3カ国語のガイダンスを可能にしました。

外国語の翻訳については、できる限り学内の人材を活用して作成したいとの本会議の方針により、オープン・リサーチ・センターのメンバーで翻訳を行うとともに、外国語でのナレーションの吹き込みまでも学内で実施しました。

音声ガイド

使用方法：展示品にある音声ガイド番号を押してから、スタートボタンを押してください。
展示室の「センター内」は、自由にお聞きください。

展示室	音声ガイド番号	展示資料タイトル
書 院	1	東亜同文書院展示1・2・3室の説明
	2	近衛篤磨の書と写真
	3	近衛文磨の書
	4	<small>ホンチヤオロ</small> 虹橋路校舎
	5	根津一院長
	6	【大旅行調査報告書】
	7	<small>ネンシヨ</small> 念書風景
	8	学籍簿・成績簿
	9	山田良政
	10	山田純三郎と孫文の写真
	11	「天下為公」「至誠如神」
	12	東亜同文会における孫文の講演写真
	13	暗号電報
	14	通行許可証
大 学 史	15	愛知大学史展示A・B・C室の説明
	16	愛知大学設立趣意書、愛知大学設立の認可通知書（2点1組）
	17	C I E（民間情報教育局）が作成した報告書（2点1組）
	18	愛知大学が発行した、東亜同文書院大学の修了証明書
	19	マッカーサー元帥夫人代理人より：小岩井学長夫人への書簡 （英文および和訳文）
	20	愛大事件
	21	旧制予科と学部の学生帽、学生寮の看板（2点1組）
	22	山岳部薬師岳遭難事故
	23	【中日大辞典】原稿カード・初版・増訂版（3点1組）
	24	各国の諸大学との協定書
	25	行事「ユネスコの夕」ポスター
	26	本間学長名で出された「愛知大学建設資金募集趣意書」
	27	本間喜一遺品
センター内	30	学生歌
	31	梢の歌（短期大学部学生歌）
	32	月影砕くる（愛知大学予科逍遙歌）

音声ガイドのナレーション例

展示室	音声ガイド番号	タイトル
大学史	18	愛知大学が発行した、東亜同文書院大学の修了証明書

日本語ガイド

敗戦の翌年に東亜同文書院大学から教職員や学生が必死で持ち帰った学籍簿や成績簿が本学に保管されたことで、のちに書院大学の卒業生や在学生の証明書が愛知大学で発行できるようになりました。当時も書院大学の評価は高く、この修了証明書を見せるだけで、当時、国内の帝国大学に入学できたといわれています。

英語ガイド

Because Aichi University had the Student records and Grades from Toa Dobun Shoin brought back from Shanghai by the students and staff with so much trouble after the war it was able the next year to issue certificates of graduation to the students who had been at Toa Dobun Shoin. These certificates were evaluated very highly. It is said that students at that time had only to show them and they would be admitted to Imperial Universities.

中国語ガイド

战败后，由于教职员和学生们从上海东亚同文书院大学冒着生命危险带回了学籍簿和成绩簿，所以此后爱知大学可以发行东亚同文书院大学的毕业生和在校生的各种证明书。

当时书院大学的评价很高。凭这个在学证明书可以顺利地进入日本国内的帝国大学学习。

タッチパネルで展示室と初期の愛知大学キャンパスを紹介

タッチパネルは、先に作成したDVDや各展示室で紹介できなかった史資料、ならびに大学記念館など戦前からの古い建物の歴史をCGに取り込み、再現した情報を、ワンタッチで検索するシステムです。目的は、書院・大学史に対する興味の範囲を広げ、より解りやすく、楽しめる部分も取り込み、学生はもとより、近隣の小・中学生の社会見学時にも興味をもつことができるような内容としました。

設置場所は、書院展示室に2台、大学史展示室に1台、大学記念館2階にある初期の愛知大学

キャンパス模型の横に1台、資料閲覧室にも1台を設置し、それぞれの特徴を打ち出すよう努めています。

タッチパネルは、先に作成したDVDや音声ガイドダンスとの内容の重複を避け、新たに映像化する史資料を捜し、シナリオを作成しました。そしてタッチパネルごとにタッチ項目、写真枚数、取り込みたいトピックスを加えて画面化しました。

全体的にタッチ回数は最小限におさえ、写真を中心に史資料を取り込んで、シンプルなものとなりました。

各展示室に設置したタッチパネルを具体的に紹介すると

1 東亜同文書院展示室では大旅行、中国語教

育、学生生活の様子などを、大旅行の写真集や、東亜同文書院の卒業アルバムを中心に映像化しました。

- 2** 孫文・中国革命に関わった山田良政・純三郎兄弟の展示室では、初めて学生が見学した場合を考慮して、「革命」をいかに表現すれば一般的に理解してもらうことが可能なのかについて議論を交わしました。

ここでは、中国革命の協力者、山田良政・純三郎兄弟を中心として描くことに決めて、孫文の活動、中国革命を彩った革命者・山田兄弟の生涯などについて、山田純三郎に贈られた写真を用いて人物を中心に構成しました。しかし、中国に渡る山田の背景が不明なことや資料不足により、どこまで掘り下げるか？専門性をどこまで持たせるか？愛大史だけでなく中国・日本近代史の紹介も必要か？など悩んだ内容です。

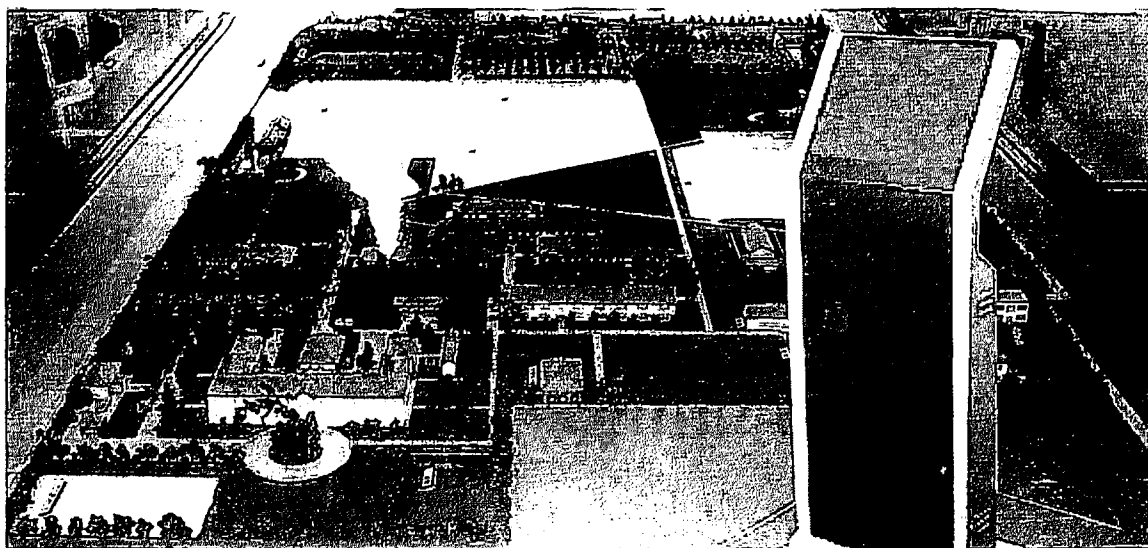
- 3** 昨年、大学史展示室をリニューアルする際、学生面の活動を取り上げたコーナーを設置したかったが、関係する資料収集がままならず課題となっていた。今回思い切って、大

学史資料室に保管されている写真資料から、主に学生活動について構成したが、継続的に史資料は保管されておらず、各サークルを平等に表現するのに苦勞しました。今後も引き続き資料提供を呼びかけて充実していきたいです。

部活動については、新聞記事の昭和20年代から50年代に活躍する内容を写真映像で紹介したが、特に昭和50年代は資料が不足しており、大学要覧で補足しました。学生歌誕生のウラ話や、既に寮のジオラマがあることから、昭和20年代から50年代の愛大学生寮の様子や寮祭を取り上げてみました。

- 4** 大学記念館2階に設置したタッチパネルは、多くの来館者が興味をもつ昭和30年代のキャンパス模型もあることから、写真や地図はもとより、CGも取り入れて、より時代の変遷が分かるように注意して作成しました。

建物は、明治41年に建設されてからの大学記念館のあゆみ、豊橋校舎に残る旧軍施設をキャンパスマップにより紹介し、より大学や歴史にも興味を抱くように構成しました。



タッチパネル

同時に豊橋校舎周辺の旧軍施設も入れ、近隣住民が親しみを抱き、気軽に来学できるよう、紹介すると同時に、全国各地の関連旧軍施設を映像で紹介しました。

5 資料閲覧室

一人で来館された方が、総合的に閲覧できるシステムとしました。

ゆっくりとDVDを見たり、記念センター蔵書を検索したり、専門的に書院のことを調べたい方のためのタッチパネルをめざして作成中です。

おわりに

愛知大学東亜同文書院大学記念センターにおけるナレーションシステムの導入は、オープン・リサーチ・センター整備事業の中の「公開・情報・データベースにもとづく展示施設の整備充実」のプロジェクトのひとつとして実施しました。

導入にあたっては、ナレーションシステムプロ

ジェクトを立ち上げ、メンバーは、グループに分かれて他大学や美術館・博物館を調査し、情報収集しました。学内では約7ヵ月にわたり50回余りの打合せを開催して検討を重ね、必要に応じて担当者も会議に加わり、議論を積み重ねながら作成しました。

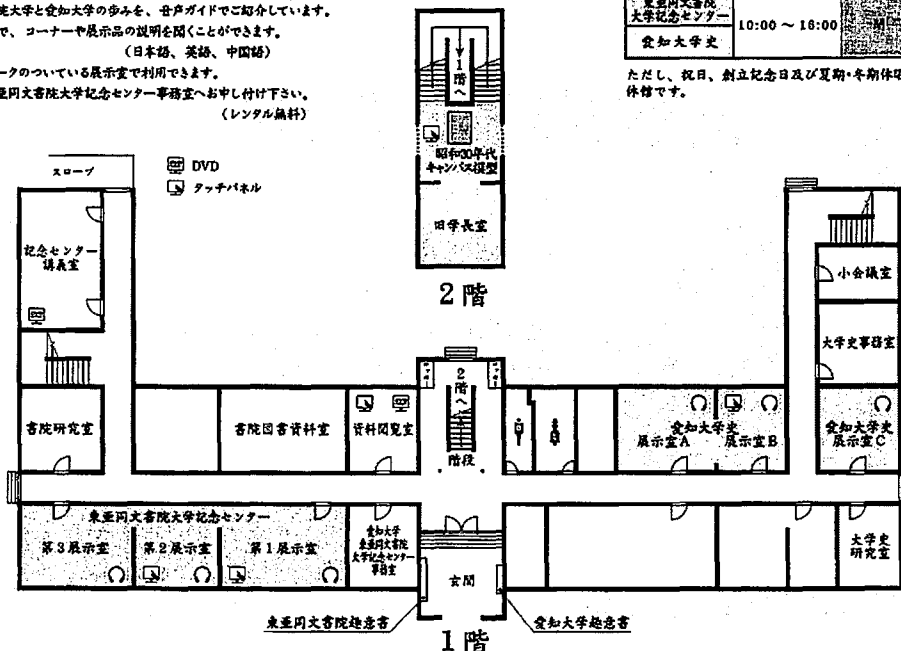
東亜同文書院大学記念センターの所属が豊橋総務課の頃、キャンパスガイドの仕事が入った時は「入門ゼミ生に対しては20分余りで展示をガイド」「地域の方には大学記念館の説明と学内の古い建物見学で60分余り」案内を希望する、といったさまざまなスケジュールにどんな内容で提供できるか悩んだり、また、思わぬ質問に冷や汗をかいたものでした。

思えば、こんな苦勞を解消して適切な案内をしたい気持ちが、今回の大学記念館ナレーションシステムの導入の大きなきっかけとなった気がします。

皆さま、是非、大学記念館にお越しいただき、気軽にナレーションシステムに触れてみてください。きっと、新しい発見があると思います。

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 案内図

東亜同文書院大学と愛知大学の歩みを、音声ガイドでご紹介しています。
簡単な操作で、コーナーや展示品の説明を聞くことができます。
(日本語、英語、中国語)
このマークのついている展示室で利用できます。
お気軽に東亜同文書院大学記念センター事務局へお申し付け下さい。
(レンタル編料)



展示室	開室時間	
	火曜日～土曜日	日曜日・月曜日
東亜同文書院 大学記念センター	10:00～18:00	閉館
愛知大学史	10:00～18:00	閉館

ただし、祝日、創立記念日及び夏期・冬期休暇期間は休館です。